

ジェンダー・エッセー

中国における女性科学・技術者の現状

中部大学経営情報学部経営情報学科講師 趙偉 (ツァオ ウエイ)

中国では、2007年3月8日、国際婦人デーを記念して、「中国における女性科学技術者の現状研究報告書」(写真)が公表された。この報告書は、中国科学院科学技術政策及管理科学研究所中国科学院戦略研究センターが、中国科学技術協会と中国科学院の依頼を受けて実施した調査研究を基に取りまとめたものである。代表研究者は同センターの研究者趙蘭香氏(写真)で、研究期間は2005年6月から2006年11月までの約1年間半にわたる。この研究の背景には、1つには、近年、女性科学技術者は重要な人的資源であることが世界的に認識される中、女性科学技術者の活用への注目という国際的研究動向がある。2つには、中国の科学技術者の3分の1以上を女性が占めているにもかかわらず、女性科学技術者のキャリア開発・形成のためのキャリア・パスが整備されていないという中国国内の社会構造的な問題がある。このような状況から、意思決定の場への登用を含め女性科学技術者の能力を十分に活用する環境整備をいかに進めていくかは、政府の重要な政策課題と言える。



本研究は、定量的(アンケート)および定性的(インタビュー)調査手法を用いて、在職している女性科学技術者、在学中の大学院生、一部の女性院士⁽¹⁾を対象に、以下の4つの問題意識の下に行われた。①女性科学技術者のキャリア開発・形成はどのような現状にあるか、②仕事と家庭の両立を目指すことは女性科学技術者のキャリア開発・形成にどのような影響を及ぼしているか、③女性科学技術者のキャリア開発・形成を困難にしている社会的要因は何か、④政府の政策や伝統的な男女の役割観に基づく文化が女性科学技術者のキャリア開発・形成にいかにか負の影響を及ぼしているか。

アンケート調査の結果、中国女性科学技術者の現状として、次の3点が明らかになった。

1. 女性の科学技術分野への参画は今後ますます増加することが見込まれる。科学技術分野に従事する女性は、2006年現在900万人いる。大学院前期課程と後期課程に籍を置く女性の割合は、1991年には20%と9%であったのに対し、2002年にはそれぞれ39%と26%にまで増加している。しかし、女性科学技術者の数が増加しても、男性中心の科学技術の分野では、研究開発上の業績を期待されない、意思決定の場への登用の機会が少ない、といった偏向から、女性の働きは見えにくく、影響力を持つ地位へと転化されていない。
2. 組織の上層部に占める女性の割合が低い。2006年現在、中国科学院の女性院士は5%、中国工程院の女性院士は5.5%である。国家机关の科学技術部局や委員会には女性はわずしかいない。中国自然科学専門学会は全国で167あるが、学会の常務理事職における女性の割合は8%にすぎない。
3. 研究助成金の配分について男女間の格差が大きい。研究プロジェ

クトの申請状況を見ると、申請に対し研究助成金を獲得した女性の割合は3分の1未満である。

また次のとおり、女性科学技術者の意識がインタビューにより明らかになった。

1. 女性科学技術者自身が男性優位の考えを内面化しているため、女性の自尊感情や自己肯定観は男性より低い。また、女性のキャリア開発・形成の途上に立ちふさがりさまざまな障害が、年齢とともに女性の自己評価を低めていく傾向がある。
2. 女性の家族的責任は男性より大きく、仕事と家庭を両立させようとすることは女性科学技術者としてのキャリア開発・形成に負の影響を与えたと考えている。
3. 加齢に伴い、男性中心の科学技術分野でのキャリア開発・形成と家庭との両立を続けていくことへのあきらめや無力感などから、キャリア開発・形成へのチャレンジ精神を家族的責任を優先する生き方へと転換してしまう女性が多い。

以上の現状分析を基に、本報告書は政府に対し、以下の提言を行っている。

1. 女性科学技術者のキャリア開発・形成においては真のジェンダー平等理念を中心に据え、ジェンダー格差を生み出している障害を取り除く取り組みを行う。
2. 積極的に国際交流を行うことにより、中国女性科学技術者の役割を世界的に位置づける。
3. 女性科学技術者の組織体系を強化しつつ、科学技術分野における女性科学技術者のネットワークを構築する。
4. マスコミなどの有効な宣伝手法を通じて、自尊感情と自己信頼に裏づけられた自律・自立の精神を持つ新しい時代の女性科学技術者像を社会に広めていく。
5. 学術界において優秀な女性研究者を育成するために、女性科学研究基金を設ける。
6. 女性科学技術者のキャリア形成に必要な学習機会を提供する。

中国では、「平等な社会」を唱えて50年が経過した。しかし、過去3000年にわたり実践されてきた女性の妻・母としての伝統的役割観は根強く、また男性中心の科学技術の分野において女性がキャリア開発・形成をしていくには大きな障害がある。このような現状をいかに克服していくかが、政府の緊急な政策課題である。趙蘭香らによって提出された『中国における女性科学技術者の現状研究報告書』は、政府によって高く評価され、提言のうち1は2007年「科学進歩法修正案」に加えられ、3についてはすでに政策に取り入れられている。今後の科学技術政策において報告書の指摘が、ジェンダーの主流化に向けた効果を生じさせることが期待される。

(1)「院士」は、中国科学院院士と中国工程院院士の略称であり、中国政府が自然科学に大いに貢献した人に与える最高な名誉称号である。全国で約600名いる。

Cutting-Edge 第29号

【発行】 北九州市立男女共同参画センター “ムーブ”
【発行日】 2008年1月20日

※本誌は再生紙を利用しています。

Cutting-Edge

[カティング・エッジ]

Move この人にきく

「ジェンダーの視点」を政策へ

新しい年がきた。2008年の今年こそ、「ジェンダーの視点」を政策に反映させたいと思う。

この数年の間に、私たちはいつの間にか、山のような問題の上に暮らすようになってしまったようだ。たとえば、この数年、地球温暖化を確証する科学的データが明らかになり、それが原因ではないかとされる災害の多発と相俟って、二酸化炭素排出量規制などの温暖化対策に対する認識が強まりつつある。他方、各国間の貧富の差は未だ非常に大きく、経済発展を求めると主張も強い。また国内に目を向ければ、不況から脱したと言われているものの、好況を実感するには程遠い暮らしが続き、さまざまな人々の生活苦の訴えがメディア上に毎日のように流れている。若い世代の暮らしの厳しさから少子化が進み、人口の高齢化に拍車をかけている。人口高齢化は、医療費や社会保障費の増大を意味する。なのに、国や地方自治体は未曾有の借金を抱え、財政削減を余儀なくされている。どの問題一つ取っても、問題の要因は根深く解決困難に思える。さらに、それぞれの問題解決の方向性の中には、相互矛盾しているものもあるように思う。

問題が山積みされている時には、複数の問題を整理し、大きな方向性を提示するビジョンが必要になる。「ジェンダーの視点」は、複雑に絡み合った複数の問題群、少子高齢化や社会保障や格差社会などの問題群に対して、「男女共同参画社会の形成」という一つのビジョンを提示してきた。冒頭に述べた「ジェンダーの視点」を政策化する必要性は、ここにあると考える。「ワーク・ライフ・バランス社会の形成」などのジェンダー問題の最重要課題は、社会政策の中核に位置する問題なのである。

しかし、このような認識は未だ十分ではない。ジェンダー問題と言えば、相変わらず「女性のライフスタイル選択の問題」としてしか見ない人々が多い。社会学に「文化的遅滞」という考え方がある。物質的文化の方が早く変動し、それに伴って生じる環境問題や社会問題を認識しそれに対処する精神的文化の形成がどうしても遅れるという理論だ。さまざまな問題に対応することが待たなしに要請されているのに、根拠なしの思い込みが横行している今日の状況を見ると、この古い理論を思い出し、まず問題を直視することこそ、必要なのだと思う。



CONTENTS

Move この人にきく	p.1
Books ジェンダー最前線	pp.2-3
Information	p.4



首都大学東京教授
江原 由美子
(えはら ゆみこ)

未来・ことば

クローゼット (the closet) とは、今世紀 (20世紀) のゲイ抑圧を特徴づける構造である。

イヴ・コゾフスキー・セジウィック

(ニューヨーク市立大学大学院教授)
『クローゼットの認識論—セクシュアリティの20世紀』
(外岡尚美訳、青土社、1999年初版)より



北九州市立
男女共同参画センター

ムーブ

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11-4
Tel: 093-583-3939 Fax: 093-583-5107
ホームページ http://www.kitakyu-move.jp
E-Mail move@move.kitakyu.in